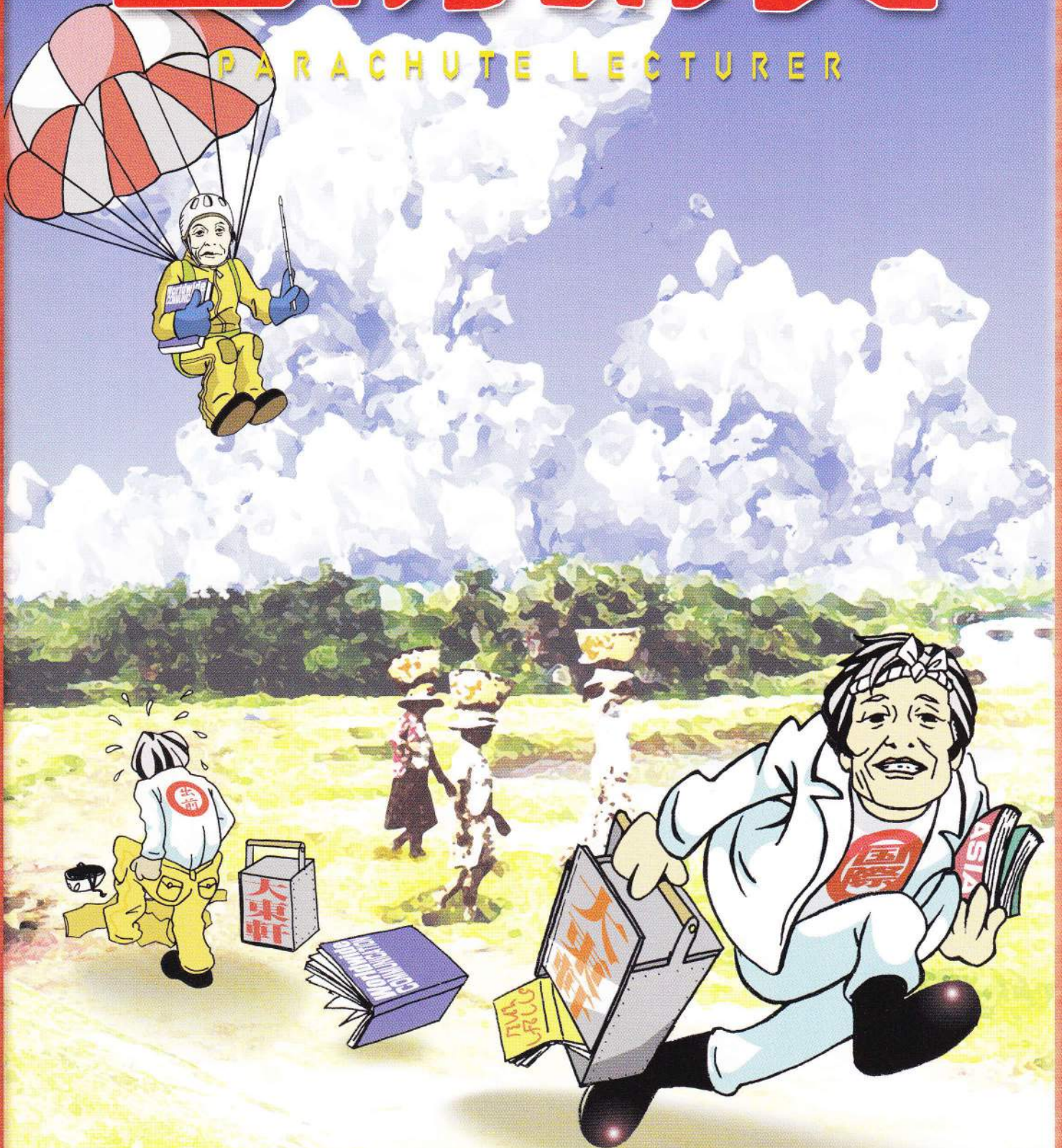


出前講義

PARACHUTE LECTURER



大東文化大学 国際関係学部

大学の講義を あなたの学校で!!

※大学の講義も
聴講できます(随時)



北海道から沖縄まで全国どこへでも出前します。

アジアの

言語を知りたい

中国語、コリア語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語、
ヒンディー語、ウルドゥー語、ペルシア語、アラビア語、
異文化コミュニケーション、
英語で読むアジア、英語で聴くアジア

歴史を知りたい

東アジアの歴史、東南アジアの歴史、南アジアの歴史、西アジアの歴史、
アジア史、文化交流史、女性史、ユーラシアの政治史、中国少数民族史、
イスラム史、日本外交史、国際政治史、
東洋史概論、日本史概論、歴史学概論

文化を知りたい

東アジアの文化、東南アジアの文化、南アジアの文化、
西アジアの文化、中国の伝統文化、道教、仏教、
イスラム文化論、ヒンドゥー文化論、アジア生活誌、
華僑文化論、地中海文化論、ジェンダーと文化、
文化人類学、比較宗教学、比較文化論、比較民族学

芸術を知りたい

東アジアの芸術、東南アジアの芸術、南アジアの芸術、西アジアの芸術、
アジアの文学、アジアの映画、アジアの音楽、仏教美術論、
敦煌美術研究、タヒチとゴーギャン、アジアンビューティとファッション、
比較文学論、比較芸術学、美術史概論、美学概論、演劇論

政治を知りたい

東アジアの政治、東南アジアの政治、南アジアの政治、西アジアの政治、
インド・パキスタン紛争、パレスチナ問題、東ティモール問題、
ロシア政治研究、国連とPKO、日本の領土問題、安全保障論、国際機構論、
国際関係論、国際政治学、国際法、憲法、政治思想史、政治学概論

経済を知りたい

東アジアの経済、東南アジアの経済、南アジアの経済、西アジアの経済、
ODAと経済開発、環境保護の経済学、アジアNIES研究、
WTOとアジア農業、日系企業の海外進出、開発経済論、国際金融論、
多国籍企業論、国際経済学、経営学、比較経営史、経済原論、近代経済学

社会を知りたい

東アジアの社会、東南アジアの社会、南アジアの社会、西アジアの社会、
アジアの農村社会、アジアの教育、アジアの女性、アジアの環境問題、
民族・エスニシティ研究、アジアの人口と食糧、難民と人権、
アジア概論、社会人類学、人文地理学、社会学概論



大東文化大学国際関係学部

大東文化大学 国際関係学部の「**出前講義**」は、2000年から全国の高校、予備校で実施しています。講義を行なった学校からは、「おもしろかった」「有意義だった」「進路を考えるうえで参考になった」などの反響をいただいています。お申し込みは右記へ、お気軽にご連絡ください。

申し込み先

出前講義を希望される場合は、

■国際関係学部事務室

0493-31-1513

■大東文化大学入試部入試課

03-5399-7800

■E-mail : nyushi@ic.daito.ac.jp

をつうじてお申し込みください。

<講義抜粋>

発展途上国の経済はさまざまな点で先進国の経済と異なっている。

だから、発展途上国の経済問題を考えるときは、その国固有の事情を理解したうえで、改善策を見つけ出す必要がある。たとえば、1997年に起きた「アジア経済危機」に対する国際通貨基金（IMF）

発展途上国の経済開闢

の処方箋は、アジア諸国の現実を十分に考慮しなかったために、むしろ「危機」を深刻化させたという批判がある。アジア経済危機の真の原因は何だったのか、どのような対策が講じられるべきだったのか、これらの問いに対する答えを模索することも、この講義のねらいである。

領土紛争をめぐる議論は、政治的にはきわめて微妙な問題であるが、解決法ではなく議論の出発点として、国際法の視点から見れば「少なくともこんなふうには言える」と示唆を与えることはできる。たとえば、日本がその範囲を明確にできないまま無限定

領土問題の国際法的視点

に「千島列島」を放棄せざるを得なかった1951年サンフランシスコ平和条約第2条C項の解釈論や、「ピートル海峽事件」など類似の事例を比較検討しながら、領土問題を国際法の観点から考えてみる。

1997年のインドネシアの大規模な森林火災は、私たち日本人の生活と密接に関係していた。企業が油ヤシ農園を開くために森に火を放ったのである。農園では農業が散布され、土壌や水を汚染した。この油ヤシを原料にした石鹸や洗剤が、日本では「環境や地球にやさしい」商品として

アジアの環境問題

売られている。しかしそこで生活し、森林を破壊された人びとにとって、油ヤシは「環境や地球にやさしい」ものではないのだ。こんな事例をとらえて、私たちの便で快適な生活がどこまでアジアの人びとに犠牲を強いていることを考える。

アジア諸国の

多くは多言語多民族社会である。たとえば、私たちには想像しにくいことだが、インド中央銀行の発行する紙幣は、連邦公用語のヒンディー語と英語のほか、異なる13の言語で表記されている。これらの言語は、標準語と方言という関係ではなく、それぞれ別個の文法と語彙をもつ独立した言語で、数億から数千万の人びと

アジアの言語と民族

の母語として使われている。このような多言語多民族状況は国家を建設し、国民を一つにまとめていくうえで障害にもなるが、同時に、豊かな文化的多様性の源でもある。インド、インドネシア、フィリピン、シンガポールといった国々を事例に、言語と民族のあり方を考察する。

日本においてインド音楽が広く知られるようになったのは、1960年代に、ビートルズがインドの楽器であるシタールを演奏に用いたことがきっかけであろう。欧米では、この時期にインド志向が高まり、それを通じて日本にもインド音楽が紹介されるようになったのである。では、ビートルズをはじめとする欧米のミュージシャンは、

インド音楽とビートルズ

インド音楽あるいはインドそのものをどのようにとらえていたのだろうか。その一方で、インドは欧米の若者をどのような存在として受けとめたのだろうか。ビートルズを題材に欧米のインド認識について考えながら、インド音楽の実際やインド人の考え方をさぐる。

アジアとは何か？アジアという概念はどのようにして成立したのか？そもそもアジアとはどこからどこまでの地域を指すのか？そのアジアのなかで日本はどんな位置にあるのか？そんな素朴な疑問から出発して、現代世界のなかに位置づけながらアジアの今を考察する。中国や韓国、タイ、

アジア概論

インドなどアジア諸国の経済発展と社会変化がどのように進んでいるか。台頭するアジアが現代世界の政治や経済においてどのような位置を獲得しつつあるか。この2点を中心に議論を進めたい。

アジアの「近代

教育」は日本とさまざまな関係をもっている。日本は明治以降の歴史のなかで、アジア諸地域に植民地および占領地をもち、そこで植民地政策・占領地政策の一環として教育政策を展開した。たとえば、台湾では51年間、韓国では36年間日本による教育行政が行なわれたが、実際の教育内容はどのようなものだったのか。日本国内にお

日本とアジアの教育

ける教育内容と比べるとどのような共通点・相違点があったのか。あるいはそれが当時の人びとに及ぼした影響とは何なのか。そしてこれらの国々で行なわれている現在の教育と関連性があるのかどうか。日本とアジア諸国との歴史的関係を踏まえながら、そんなことを考えてみたい。

インドとパキスタンは1998年5月にあいついで核実験を行ない、みずから「核兵器保有国」になったことを宣言した。両国はかつて大英帝国の植民地として一つの体制にあった。しかしこの「兄弟国」は、1947年の分離独立以来、3度の戦争をたたかっている。両国はなぜ分離しなければならなかったのか。

国際政治学・南アジアの政治

二つの核保有国の対立はアジア地域の安全保障にどのような影響を及ぼすのか。それは世界の「核体制」にどのような挑戦であるのか。インドとパキスタンの核実験を手がかりに、国家の独立、国家間紛争、現代世界システムの特徴を解き明かす。

イスラム教はキリスト教、仏教とならぶ世界の3大宗教であり、イスラム社会は現代世界の動向に大きな影響を与えている。しかし12億人以上の信者をもつこの宗教の内実を私たちはあまり知らない。さらに現代世界では、イスラムはしばしば政治紛争や事件と結びつけてとりあげられ、私たちのイスラムについての知識もマスメディア

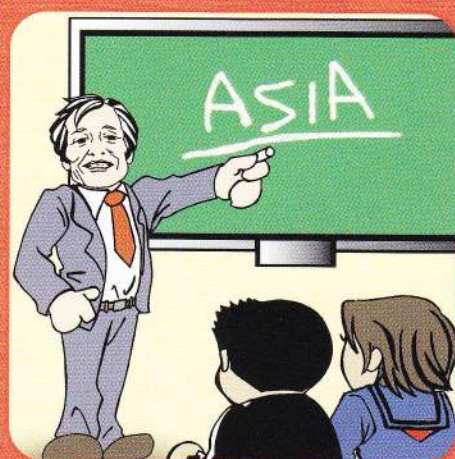
イスラム文化論

の偏った情報にもとづいていることが多い。なぜ、イスラム教徒は断食をするのか。なぜ、豚を食べることがタブーなのか。インドネシアで豚の素が、イスラム教徒の批判を受けて、発売禁止になったのはなぜか。そんな疑問を手がかりにイスラム文化の本質について考える。

文化は伝播する。いかなる地域のいかなる民族の文化も、外部の影響を受けずに存在することはできない。日本文化もまた中国文化やインド文化の恵みを受けてきた。この講義では、日本と欧米諸国、日本とアジア諸国の文化交流の歴史をたどりながら、交流をつうじてそれぞれの文化

文化交流史

にどのような発展と変化があったかを考える。とりあげるテーマは、欧米におけるジャポニズム、万国博覧会と文化交流、世界のなかの日本芸術、欧米およびアジア諸国における「ジャパニメーション」の受容、などである。



 大東文化大学

国際関係学部

東松山校舎 〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560 TEL 0493(31)1513(国際関係学部事務室)

板橋校舎 〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1 TEL 03(5399)7800(入試部入試課)

インターネットアドレス <http://www.daito.ac.jp/>